

防災減災学術連携委員会（第25期・第15回）

議事要旨

日 時：令和5年9月5日（火）17:30～19:00

会 場：Zoom ミーティングを用いたオンライン会議

出席者： 米田雅子（委員長）、安村誠司（副委員長）、田村和夫（幹事）、永野正行（幹事）、
今村文彦、齊藤大樹、鈴木康弘、寶馨、竹内徹、平田直、森口祐一、山本あい子、
山本佳世子（13名）

欠席者： 畝本恭子、大西隆、菊地優、小池俊雄、高橋良和、中村尚、目黒公郎、吉原直樹、
若尾政希（9名）

事務局： 齊藤美穂、稲元祥吾

議 題：

- 1) 前回議事要旨案の確認
- 2) ぼうさいこくたい 2023 企画 日本学術会議公開シンポジウムについて
- 3) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023 について
- 4) 今期の防災減災学術連携委員会の振り返り
- 5) 来期の防災減災学術連携委員会について

配付資料：

資料0：防災減災学術連携委員会（第25期・第15回）議事次第

資料1：防災減災学術連携委員会（第25期・第12回）議事要旨（案）

資料2：防災減災学術連携委員会（第25期・第13回）議事要旨（案）

資料3：防災減災学術連携委員会（第25期・第14回）議事要旨（案）

資料4：20230917 防災学術連携シンポジウム

資料5：国際会議 2023program-ja

資料6：第25期防災減災学術連携委員会活動のまとめ

議 事：

1) 前回議事要旨案の確認

- ・ 田村幹事より、資料1～3を用いて、第12～14回委員会（第13回はメール審議、第14回は府省庁との連絡会として開催）の議事要旨案の説明があり、一部文字修正の上、承認された。

2) ぼうさいこくたい2023企画 日本学術会議公開シンポジウムについて

- ・ 永野幹事より、資料4を用いて、9月17日に開催される、ぼうさいこくたい2023（日本学術会議公開シンポジウム、第17回防災学術連携シンポジウム）の企画について、説明があった。

3) 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2023について

- ・ 實委員より、資料5を用いて、9月7日、8日に開催される「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2023」のプログラムについて、説明があった。
- ・ 本会議のテーマは「壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革」であり、日本学術会議（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2023分科会）が主催で、防災減災連携研究ハブ（JHoP）と防災科学技術研究所の共催で開催される。
- ・ プログラム構成は、初日の開会式の後、テーマ1「壊滅的災害の経験と変革」、テーマ2「壊滅的災害を乗り越える道筋」について、計5つのセッションに分け、各セッションは講演とパネル討議により構成される。2日目の後半には統合セッション、ハイレベルパネルセッションが行われる。

4) 今期の防災減災学術連携委員会の振り返り

5) 来期の防災減災学術連携委員会について

米田委員長より、資料6を用いて、防災減災学術連携委員会の今期の活動について、報告があった。

- ・ まず、今期の初めに出された、本委員会設置を提案する、課題別委員会設置提案書について説明があった。この提案書には、防災減災に向けた連携の必要性や過去の経緯、継続設置の必要性等が書かれており、引き続き次期に本委員会を立ち上げることの提案と、その際にこの提案書も参考にできる旨の話があった。
- ・ 次に、今期の活動の振り返りがあり、8回の防災学術連携シンポジウム、防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会、防災学術連携体の緊急報告会・市民向けメッセージ発信への協力、関東大震災百年行事の収集と公開、本委員会の開催等の活動について報告された。

- ・ 今期の本委員会のこれら活動により、多数の参加者やマスコミを通じて学术界の活動が展開されたこと、防災学術連携体の学協会や府省庁との連携や情報共有が進んだことなどの成果について報告された。
- ・ 今後の方向として、防災減災の研究活動には広い分野のつながりが必要であり、第一部、第二部、第三部から委員を集めた本委員会の活動は意義深く、今後も活動の継続が必要であることが述べられた。

今期の本委員会の活動及び来期以降の活動に関連して、各委員より以下の意見が出された。

- ・ 今後の防災減災を担う人材育成は重要な課題である。
- ・ 学術分野の知識をどう統合して地域の方々に伝えるかも重要である。
- ・ 防災減災に関するホットな話題について専門家から解説いただく機会があると良い。
- ・ 日本学術会議の活動と学協会の活動は切り分けて考える必要がある。
- ・ 子ども達も含めて、防災の連携の輪をさらに広げると良い。
- ・ 学際連携は重要。社会にこの活動が伝わっていくと良い。
- ・ 府省庁との連携も引き続き進めていく必要がある。
- ・ 学術分野における災害調査の在り方・進め方についても課題がある。
- ・ 各種の協議会や機関、中堅若手等へと情報共有の範囲を広げると良い。
- ・ 幅広い学術分野の連携は重要。災害復興における私有財産の扱いも課題である。
- ・ 各分野の連携基盤の下で具体的な活動を進める方向をつくるのが今後の課題である。
- ・ 防災減災学術連携委員会は今後も継続していくべき重要な委員会である。

最後に、米田委員長より、次期も課題別委員会として本委員会を立ち上げて、防災学術連携体とも連携して、さらに活動の輪を広げていただきたい、との挨拶があった。

以上